平成29年第３回神奈川県議会定例会

ともに生きる社会かながわ憲章推進特別委員会資料

保　健　福　祉　局

目　　次

ページ

Ⅰ　「神奈川県障害福祉計画」の改定について 1

Ⅱ　ともに生きる社会かながわの実現に向けた取組みについて 3

Ⅲ　津久井やまゆり園の再生について 5

参考資料　第５回みんなあつまれ2017　実行委員会資料

別添資料　津久井やまゆり園再生基本構想（案）

Ⅰ「神奈川県障害福祉計画」の改定について

平成 27 年３月に策定した「神奈川県障害福祉計画」について、計画期間が満了し、新たな計画を策定する必要があるため報告する。

１　改定の概要

(1)　計画の位置付け

障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律第 89 条第１項に基づく法定計画である都道府県障害福祉計画であり、各市町村を通ずる広域的な見地から、障害者及び障害児の地域生活を支える障害福祉サービス、相談支援及び地域生活支援事業の提供体制を確保するための計画とする。

(2)　計画期間

平成 30 年度から平成 32 年度までの３年間とする。

(3)　対象区域

県内全市町村とする。

(4)　計画改定の考え方とポイント

・　国が示す「障害福祉サービス及び相談支援並びに市町村及び都道府県の地域生活支援事業の提供体制の整備並びに自立支援給付及び地域生活支援事業の円滑な実施を確保するための基本的な指針」に基づき、改定する。

・　ともに生きる社会かながわ憲章の制定や津久井やまゆり園再生基本構想の策定等を踏まえた今後の県の取組みを計画に反映させる。

２　改定骨子案

(1)　基本的理念等

ア　法令の根拠

イ　趣旨及び経過

ウ　目的

エ　基本理念と基本方針

オ　津久井やまゆり園の再生を踏まえた取組み等

(2)　平成 32 年度の成果目標の設定

ア　福祉施設の入所者の地域生活への移行

イ　精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築

ウ　地域生活支援拠点等の整備

エ　福祉施設の利用者の一般就労への移行等

オ　障害児支援の提供体制の整備等

(3)　指定障害福祉サービス等の種類ごとの量の見込みを定める単位となる区域の設定

(4)　各年度における指定障害福祉サービス等の種類ごとの必要な量の見込み及びその見込量の確保のための方策

ア　各年度における指定障害福祉サービス、指定地域相談支援または指定計画相談支援の種類ごとの必要な量の見込み

イ　各年度における指定障害児通所支援、指定障害児相談支援及び指定障害児入所支援の種類ごとの必要な量の見込み
ウ　指定障害福祉サービス・指定通所支援等の種類の見込量の確保のための方策

(5)　各年度の指定障害者支援施設及び指定障害児入所施設等の必要入所定員総数

(6)　指定障害福祉サービス等に従事する者の確保または資質の向上等のために講ずる措置
ア　サービス提供に係る人材の研修等
イ　指定障害福祉サービス事業者等に対する指導・監査
ウ　障害者等の権利擁護の推進
エ　障害者等に対する虐待の防止
オ　指定障害福祉サービス等の事業者に対する第三者の評価

(7)　県の地域生活支援事業の実施に関する事項
ア　県が実施する地域生活支援事業に関する考え方
イ　実施する事業の内容及び各年度における量の見込み
ウ　各事業の見込量の確保のための方策

(8)　津久井やまゆり園の再生を踏まえた取組み

(9)　障害福祉計画の期間及び見直しの時期
ア　障害福祉計画の期間
イ　見直しの時期

(10)　障害福祉計画の達成状況の点検及び評価

(11)　障害保健福祉圏域ごとの計画の目標値等

3　今後のスケジュール

平成29年11月	神奈川県障害者施策審議会において改定計画素案審議
12月	第3回定例会厚生常任委員会に改定計画素案を報告
平成29年12月～平成30年1月	改定計画素案に対するパブリック・コメントの実施
平成30年2月	神奈川県障害者施策審議会において改定計画案審議
	第1回定例会厚生常任委員会に改定計画案を報告
3月	改定計画の決定

Ⅱ　ともに生きる社会かながわの実現に向けた取組みについて

みんなあつまれ 2017 実行委員会において了承された、「みんなあつまれ 2017」の開催内容について報告する。

1　開催概要

障がい者への偏見や差別的思考を排除していくため、これまで障がいのある方との接点が少なかった人にも参加を促し、「ともに生きる」をみんなが体感して、お互いの理解につながる体験を共有していただけるようなイベントを開催する。

開催日：平成 29 年 10 月 21 日（土）、22 日（日）
場　所：赤レンガ倉庫二棟間広場及び赤レンガパーク
内　容

開催日	内　容	時間(予定)
10 月 21 日(土)	みんなあつまれ広場(出店プロジェクト)	10 時－17 時
10 月 22 日(日)	みんなあつまれ 2017 MUSIC LIVE	11 時－20 時
	スポーツでみんなあつまれ！	10 時－17 時
	アートでみんなあつまれ！	10 時－17 時
	みんなあつまれ広場(出店プロジェクト)	10 時－19 時

※　赤レンガ倉庫イベント広場では、「東京湾大感謝祭」も同時開催

2　主なプログラム

(1)　みんなあつまれ 2017 MUSIC LIVE

様々なアーティストによる入場無料のミュージックライブを開催する。

- ライブでは、クレイ勇輝氏（みんなあつまれ 2017 実行委員会 総合プロデューサー）が書き下ろしたイベントのテーマソング「SO LIFE GOES ON」を、障がいのある方を含めた来場者と出演者が、みんなで歌い、踊ることなど、同じ体験を共有することを通じ、「ともに生きる」を共感していただけるような企画としていく。
- イベント当日に向けて、市町村のイベントへの参加や特別支援学校や高等学校を訪問して、イベントテーマソングの振付講習会を開催し、イベントへの関心を高めてもらい、当日のライブへの来場を呼びかけていく。
- テーマソングのプロモーション動画の作成に当たっては、障がいのある方々に多数出演いただいた。

【出演アーティスト（予定・順不同）】
伊東歌詞太郎、クレイ勇輝、ビッケブランカ、FIREBALL、PUSHIM、HOME GROWN、BOYS AND MEN 研究生、MOROHA、モン吉　他

(2)　スポーツでみんなあつまれ！

パラスポーツ選手がパラスポーツを実演し、誰もが気軽に参加して楽しめるスポーツ体験コーナーを設置する。

- ボッチャ体験会【日本電気㈱】
  簡易のボッチャコートで、その場で参加者を募りミニゲームを開催
- 親子で車いすバスケ体験（事前申込み制）【京浜急行電鉄㈱】
  参加者 50 名程度、１時間半程度の体験会を開催するとともに、車いすバスケの選手と一緒に楽しんでもらい、理解を深める。
- ウィルチェアラグビーチーム「BLITZ」の協力による体験会
- キックターゲット大会【横浜マリノス㈱】等を実施予定

(3)　アートでみんなあつまれ！

県社会福祉協議会の協力を得て、障がいのある作家などのアート展示や実演、一緒に体験できるワークショップコーナーを設置。

【出展者】

門　秀彦、アール・ド・ヴィーヴル、studio FLAT、ひらつか障がい者福祉ショップ「ありがとう」

(4)　みんなあつまれ広場（出店プロジェクト）

大規模イベントでの販売経験が少ない障がい福祉サービス事業所が、メニューなどを改良して「みんなあつまれ 2017」に出店し、来場者に飲食メニューや日頃の活動をＰＲする。

・　事業所の皆さんが、有名ホテルの総料理長や中小企業診断士などのアドバイスを受けながら、イベント当日へ向けた準備を行っている。
・　クラウドファンディングサイトの Readyfor において、プロジェクトのプロセスを発信しながら、イベントへの出店費用に対する支援を募集している。
・　改良したメニューの試食会を９月 29 日（金）に開催することとしており、その様子についても発信していく。

【提供メニュー】

開催日	メニュー（予定）
10 月 21 日(土)	マグロかつバーガー、ポンデケージョ、手打ちそば、ごぼうチョコケーキ、みかんパン等
10 月 22 日(日)	あかもくバクダン丼、横須賀海軍カレー、鉄板ピザ等

【出店事業所】

共働舎、まどか工房、ごぼうハウス都筑、フード・プランニング、あすなろ学苑、就労・生活サポートセンター三浦、しんわルネッサンス・サンメッセしんわ、コペルタ貴志園

３　協賛金等の状況

・　当初総事業費 8,000 万円の財源のうち、協賛金・寄付金の目標額を 6,000 万円としていたが、平成 29 年７月 18 日に開催された「第４回 みんなあつまれ 2017 実行委員会」にて、イベントの企画内容と総事業費の見直しが了承され、目標額を 3,000 万円に、総事業費を、県からの負担金 2,000 万円と合せて 5,000 万円とした。
・　９月 25 日時点の協賛金・寄附金額は、3,218 万余円。
・　また、日本電気㈱からの「ボッチャ体験会」や京浜急行電鉄㈱からの「車いすバスケ体験」、東日本旅客鉄道㈱横浜支社や小田急電鉄㈱、横浜高速鉄道㈱などによる広報協力などについては、約 900 万円相当と換算している。

＜別添参考資料＞

・参考資料　　第５回みんなあつまれ 2017　実行委員会資料

Ⅲ　津久井やまゆり園の再生について

津久井やまゆり園の再生について、現在の取組状況を報告する。

1　津久井やまゆり園再生基本構想（案）の取りまとめ

平成 28 年９月、県が示した「現在地での全面的建替え」の方向性について、様々な意見が出されたことを踏まえ、平成 29 年２月、神奈川県障害者施策審議会に、津久井やまゆり園再生基本構想策定に関する部会を設置した。平成 29 年８月２日に部会としての検討結果報告書案が取りまとめられ、同月 17 日には神奈川県障害者施策審議会で、報告書が承認され、同日、会長から知事に提出された。

県として、この報告書を踏まえ、８月 24 日に津久井やまゆり園再生基本構想（案）をとりまとめた。

2　津久井やまゆり園再生基本構想（案）の概要

(1)　利用者の意思決定支援

・　津久井やまゆり園利用者の今後の生活の場の選択については、利用者一人ひとりの意思を尊重すべきである。

・　その実現に向け、厚生労働省から示された「障害福祉サービス等の提供に係る意思決定支援ガイドライン（平成 29 年３月）」に基づき、丁寧に、かつ、適切な手続きにより、利用者の意思決定支援に取り組む。

(2)　利用者が安心して安全に生活できる場の確保

ア　生活の場の確保

・　津久井やまゆり園利用者が事件の被害者であり、大変な精神的な苦痛を受けたことを踏まえ、まず、130 人のすべての利用者が安心して安全に生活できる入所施設の居室数を確保することを前提とする。

・　その上で、利用者本人の選択の幅を広げ、その意思を可能な限り反映できるよう複数の選択肢を用意する。

・　これまで利用者が生活していた千木良地域における入所施設に加え、利用者の仮居住先となっている芹が谷地域における入所施設の整備を進めるほか、既存の他の県立障害者支援施設においても、利用者の生活の場を確保する。

区分	地域	利用者の受け皿	短期入所	合　計
新設	千木良 芹が谷	120人	12人	132人
既存の県立障害者支援施設		10人	―	10人
合　計		130人	12人	

イ　整備の方法・入所定員

・　施設整備に当たっては、設計段階においては、千木良地域及び芹が谷地域いずれについても、意思決定支援の状況に応じて施設規模を選択できるように設計する。

・　そして、意思決定支援の進行に伴う利用者の選択の傾向を踏まえた上で、千木良地域及び芹が谷地域それぞれの入所定員を設定し、建築工事を行うことを検討する。こうした方法により、利用者の希望が可能な限り実現できるよう配慮する。
・　それぞれの定員については、意思決定支援のヒアリング開始から概ね２年程度を経過した時点で判断する。

ウ　施設の機能

医療的ケアや強度行動障害へのケアなど専門性の高い入所支援機能に加え、短期入所や相談支援など、専門的支援力を活かして地域生活を支える拠点機能の充実強化を図る。

(3)　利用者の地域生活移行の促進

意思決定支援を進める中で、地域生活移行の希望が示された場合は、安心して地域生活を過ごすことができるよう、専門的支援の継続的な提供やグループホームの整備の促進などの支援に取り組む。

3　説明会における主な意見

８月 24 日に津久井やまゆり園再生基本構想（案）を取りまとめた後、順次説明会を開催した。その概要は次のとおり。

(1)　家族【８月 25 日（32 家族 36 名参加）、８月 27 日（33 家族 47 名参加）、
９月 ９日（63 家族 93 名参加）】

・　「健康的な生活」や「食の安全や満足」という視点を加えてほしい。
・　引き続き、かながわ共同会の支援を受けたい。
・　他施設に在籍している利用者にも十分な情報提供をしていただきたい。
・　再入所のしくみを機能させていただきたい。
・　芹が谷地域の工事は、利用者の生活に影響がないよう十分に配慮してほしい。

(2)　地域住民

ア　芹が谷地域【８月 27 日（７名参加）、８月 29 日（15 名参加）】

・　芹が谷は、利用者の方が安心して安全に暮らす場にふさわしい環境である。
・　今後とも、早目の情報提供をお願いしたい。

イ　千木良地域【９月１日（13 名参加）、９月３日（13 名参加）】

・　災害時の利用者の安全に加え、地域の防災拠点としての機能も果たしてほしい。
・　地域住民との交流の場作りについては、検討段階から意見を聴いてほしい。

(3) 障がい者団体等【９月５日（26 団体 59 名　参加）】

・　公聴会等の意見が取り入れられていることを評価する。
・　意思決定支援チームの構成員について、他にオンブズパーソン等第三者の関与などを検討すべきである。
・　引き続き県立施設としての役割を果たしていくためには、手厚い職員配置が必要と考える。
・　生活の質の向上といった視点を加えてほしい。

4　家族会からの要望

９月 11 日に、家族会より知事あての要望書が提出された。その概要は次のとおり。

・　現在の指定管理期間中である平成 36 年度までは、引き続き運営をかながわ共同会としてほしい。
・　新施設を早期に整備してほしい。特に、千木良地域の施設を優先して整備してほしい。
・　既存施設は、十分に改修してほしい。
・　食事や衛生、健康・運動環境を充実させてほしい。

5　今後のスケジュール

平成29年10月　　津久井やまゆり園再生基本構想の策定

＜別添参考資料＞

・別添資料　津久井やまゆり園再生基本構想（案）